

## 大会開催に向けた感染拡大予防ガイドライン

はじめに。

周知の事ではありますが、新型コロナウイルスの感染経路は主に飛沫感染と接触感染によるとされています。

- ・【飛沫感染】感染者のくしゃみ、咳、つば、などの飛沫と一緒にウイルスが放出され、別の人があるウイルスを口や鼻から吸い込み感染する。  
また、顔などに飛沫が直接かかれば目の粘膜からも感染する。
- ・【接触感染】感染者がくしゃみや咳を手で押さえ、その手で周りの物に触れてウイルスが付く。大声で話などしてテーブル等に飛沫が付く。別の人がある物に触ってウイルスが手に付着し、その手で口・鼻・目などを触り粘膜から体に入り感染する。傷などの無い皮膚からは感染しない。
- ・【空気感染】感染者が飛ばした飛沫から水分が蒸発しウイルスだけが残った飛沫核は軽い為に浮遊しやすく、それを吸い込んで感染する事を言う。  
(当初、空気感染はしないとされていた。しかし飛沫感染や接触感染に比べてリスクは低い日本拳法は室内競技の為に注意必要。)

上記の感染リスクを避ける為、密接・密集・密閉等の3密解消が言われています。

マスク着用・手洗い消毒・フィジカルディスタンス・換気送風等を徹底する事により軽減・回避できると考えられます。

感染は誰でもしますがその後の経過は高齢者や基礎疾患が有る方など免疫機能が低下している人の重症化するリスクが高い事がわかってきています。

また、4月の感染拡大の時と異なり7月以降は検査能力の拡充により若年層を中心とした感染拡大が生じている事、経済活動の再開で必然的に感染者が増える中、軽症者や無症状病原体保有者が多く報告されています。

その為、主催者は参加者の中に無症状の感染者が会場内にいる前提で感染予防に全力で取り組んで下さい。

感染拡大防止の要は感染者の唾液（飛沫）を自分の粘膜に付けなければウイルスは感染しないので、それを避けることが全ての予防対策の基本です。

\*少年は面への打撃を禁止しているため、近い距離で対面した状態で気合を出しながら打ち合い続ける事が有るので、注意が必要。

## 大会開催に向けて

各都道府県連盟や各職域連盟の主催者は開催される場所の都道府県及び会場施設の方針に従う事を前提として、感染予防策ガイドラインを策定する事。

周知された予防策として、参加募集時の対応・当日の参加受付時の対応・参加者への対応・主催者が準備すべき事項・参加者遵守すべき事項等を添付の日本スポーツ協会から発信されている、①スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン、②概要 ver3、③チェックリストのファイル3点をよく読み理解されて、主催者の責任の下でイベントを実施するようにお願いします。

また参加者に対しては、家族構成や考え方も一人一人違う為、個人の意思を尊重し、参加を強要することの無いように団体代表者は特に留意して下さい。

## 大会運営の留意点

- ・密集した場所や時間を作らないようにスケジュールを組む事。
- ・コロナ禍での試合の特別ルールや会場内での行動・順序を事前に参加者に周知し、当日混乱なくスムーズに移動、運営出来るようにする事。
- ・1人が連続して試合を行う場合、回復に十分な間隔をあける事。
- ・会場内では常に全員がマスクを着用し、人にうつさない気遣いを持つ事。
- ・普段から新しい生活様式を基本とし感染を防ぐようにする事。
- ・練習不足の為、選手のけが防止に留意する事。

## 試合に於ける留意点

- \* 不織布マスク：一般的に市販されている不織布で作られたマスクを言う。  
(ウイルスに対する効果は有るが、長時間着用した激しい運動は避ける方が良い。)
- \* 面シールド：面内部の口元部分に直接付けるプラスチック製の物を言う。
- \* 面マスク：面の中で装着する呼吸のしやすいマスクを言う。  
(一般的に市販されているポリウレタン素材で作られた物、立体型で直接口とかに触れないタイプが呼吸しやすい。他にメーカーからスポーツ用マスクも販売されている。)

①面シールドだけ ---- 飛沫飛散防止効果は 70%程度しかない

②面マスクだけ ---- 飛沫飛散防止効果は約 90%。

③面シールドと面マスクの併用 ---- 95%の飛沫飛散防止効果有る、

【上記数値は全日本武道具協同組合と全日本剣道連盟が共同で新日本空調(株)の協力で行われた実験結果を参照させて戴いています。】

\*大会により試合方法が異なるので主催者は上記資料を勘案し選手に最善な方法を取る事。

\*試合後、防具を外した時にマスクを外して近くの人と話をしない事が重要。